

第3章 食育・健康づくりにおける具体的施策

第1節 食育の推進

(1) 食に関する知識普及の推進 **施策の方向性：「食の大切さを学び、食に関する必要な情報を得て、食と食育への関心を高める。」**

評価基準
A 事業を実施し、施策の方向性の成果が十分得られた。
B 事業を実施し、施策の方向性の成果が概ね得られた。
C 事業を実施したが、施策の方向性の成果までは得られなかった。
D 事業を実施したが、施策の方向性の成果が得られず課題が多い。
E 事業を実施していない。

事業名	事業内容	29年度実施内容	29年度評価	30年度の実施予定内容	所管課
パパとママのためのマタニティクラス	妊婦とその家族を対象に、妊娠期から授乳期までの健康管理、食事のバランスのほか、妊婦歯科健診の実施や新生児期の育児等についての講義と実習を行います。	妊婦とその家族を対象に、出産・育児、妊婦の栄養と歯と口の健康について学ぶ教室を実施。 【母親学級】 6回実施 39人参加（うち栄養の講話・試食、歯の講話・歯科健診 32人参加） 【両親学級】 3回実施 58人(29組の夫婦)参加	B	引き続き、妊婦とその家族を対象とした教室を実施し、内容の充実に努める。 【母親学級】6回実施 各回定員15人 【両親学級】3回実施 各回定員10組	健康推進課
離乳食教室	5か月から8か月頃の乳児と保護者を対象に、試食や調理実習を通して離乳食の進め方を学ぶ教室を実施します。	離乳食対象時期の乳児と保護者を対象に、栄養士による離乳食教室を実施。 【1回食(生後5～6か月)】12回実施 120人参加 【2回食(生後7～8か月)】8回実施 68人参加	B	引き続き、栄養士による離乳食教室を実施し、内容の充実に努める。 【1回食(生後5～6か月)】12回実施 各回定員15人 【2回食(生後7～8か月)】8回実施 各回定員10人	健康推進課
子どもの栄養と歯科相談	乳幼児の保護者を対象に食の安全について啓発するとともに、離乳食の進め方や歯みがき、むし歯予防等の相談や身体計測を実施します。	食の安全について啓発するとともに、離乳食の進め方や歯みがき、むし歯予防等の相談や身体計測を実施。 実施回数 12回 身体計測 361人 歯科相談 66人 栄養相談 64人 その他 8人	B	引き続き、食の安全について啓発するとともに、離乳食の進め方や歯みがき、むし歯予防等の相談や身体計測を実施。 実施回数 12回	健康推進課
健康相談・栄養相談	適切な健康づくりができるよう、個別の相談に応じ、家庭における健康づくりの支援を図ります。	成人の方を対象に、健康や栄養に関することについて、医師・保健師・栄養士による個別相談を実施。 実施回数 4回 健康相談 17人 栄養相談 10人	C	引き続き、医師・保健師・栄養士による個別相談を実施。 実施回数 4回	健康推進課
食育イベント	食事展や村山デغدラまつりにおいて、パネルの展示等を行い、食への関心を高めます。	食事展にて地場野菜のパネル展示や野菜摂取についての啓発を実施。 野菜の計量 91人参加 野菜を使用した料理の紹介(メニュー配布) 53人	B	引き続き、食事展やデغدラまつりにて地場野菜についての啓発と野菜を使用したメニューの配布を実施。	健康推進課
フードドライブ※の取組	食品ロス削減に向けた取組として、各種イベント等を通じて、家庭で余っている食べ物を持ち寄り、それらを福祉団体や施設、フードバンクなどに寄附します。	その日の食事にも困難な状態である相談者へ、配布事業を実施する市社会福祉協議会を通じて食べ物を提供。	A	食料の確保がままならない者への食糧配布だけでなく、食料を寄付する者も引き続き市社会福祉協議会へ紹介する。	関係各課 (地域福祉課)
		フードドライブの周知を行うことで、民間団体が行う子ども食堂に、フードドライブにて寄付があった食材を提供。	B	引き続き必要とされる施設及び取組に対して寄付等の周知を行う。	関係各課 (子育て支援課)
		必要に応じて生活困窮者や生活保護受給者へフードバンクの利用の提案を行った。	C	必要に応じて生活困窮者や生活保護受給者へフードバンクの利用の提案を行う。	関係各課 (生活福祉課)
		実施なし	E	ボランティア・市民活動センター主催の元気フェスタで市民協働提案制度の提案団体により実施。また、くらしフェスタでも実施予定。	関係各課 (協働推進課)

		デエダラまつり会場環境フェスタブース内にて、フードドライブを実施。回収した食品を「NPO法人子育て未来ネットこどもと」へ寄付。 回収実績 10.1 k g	B	引き続き、デエダラまつり会場環境フェスタブース内にて、フードドライブを実施。アプリやSNSなどを利用し、周知を行い、より多くの方に関心を持っていただけるよう努める。	関係各課 (ごみ対策課)
消費者講座・消費生活展	生活に密着した情報や社会情勢の中で問題とされることについて、分かりやすく学べる講座を実施します。また、消費者意識の高揚を目的として、消費生活展を開催します。	消費者講座を6回開催し、計138人が受講。また、消費生活展を2日間開催し、計231人が来場。	B	消費者講座を6回開催予定。また、消費生活展を改め、くらしフェスタとして2日間開催予定。	協働推進課
ヘルシーSlim教室・骨粗しょう症予防教室	ヘルシーSlim教室、骨粗しょう症予防教室における医師の講話、保健師からの指導・助言、試食を含めた栄養士による栄養指導、歯科衛生士からの歯みがき等の実習を取り入れた歯科指導を通して、生活習慣の改善へとつなげます。	各種健康教室にて、医師・保健師・栄養士・歯科衛生士からの講話・指導・助言等を行い、生活習慣の改善につなげる教室を開催。(平成29年度より「ヘルシーSlim教室」は「健康寿命を延ばそう教室」に変更。) 【健康寿命を延ばそう教室】2回実施 延べ26人 【骨粗しょう症予防教室】1回実施 28人	B	引き続き、各種健康教室を実施し、内容の充実に努める。 【健康寿命延ばそう教室】 2回 【骨粗しょう症予防教室】 2回	健康推進課
食育への取組	家庭、学校、地域等と協力し、食育の取組を推進します。また、家庭へ情報発信を行うほか、学校給食を通じた食育を推進します。	乳幼児健康診査受診の保護者を対象に、食に関する情報を発信するために集団指導と資料の配布を実施。(101回実施 2,361人参加) また、協働推進課、産業振興課及び大南学園第七小学校との合同事業にて、収穫後の野菜を使用した料理の試食と、その栄養と朝食に関する講話を行った。(9組、20人参加)	B	引き続き、乳幼児健康診査や関係各課と協力しながら食育の情報発信に努める。	健康推進課
		献立表による情報発信(小11回、中11回)、試食会の実施(小9回、328人、中3回、68人)、放送メモで旬の食材など食への興味、関心を高める献立の作成。 また、中学生に対する食育講座開催。大南学園第四中学校で3回実施。(対象は、中1～中3各1回)	B	献立表による情報発信、試食会の実施、放送メモで旬の食材などを紹介し、食への興味、関心を高める献立の作成に努める。 また、中学生に対する食育講座開催。(対象は、中1～中3各1回)を実施予定。	学校給食課
		残食ゼロ週間を中心に、各学校において残食ゼロに向けた取組を行った。また、夏季教職員研修では、市内小学校の栄養教諭を講師に迎え、食育研修会を実施。	B	残食ゼロ週間を中心に、各学校において残食ゼロに向けた取組を行う。また、夏季教職員研修では、昨年度に続き市内小学校の栄養教諭を講師に迎え、食育研修会を実施。	教育指導課
		地産地消や食育の大切さを学んでいただくことを目的に、大南学園第七小学校と協力し、市内農家での収穫体験及び収穫した農産物の調理実習や栄養指導等を行うイベントを開催。	B	今年度も収穫体験イベントを予定。	産業振興課
ホームページ等を活用した啓発	各種教室等で紹介した献立や学校給食の献立のレシピをクックパッド等で公開するなど、若年層への啓発を工夫します。	2歳児歯科健康診査、こどもの栄養と歯科相談の際に、献立展示とレシピの配布を実施。	C	引き続き献立展示、レシピの配布やSNSなどを利用し、情報発信に努める。	健康推進課
		学校給食の献立のレシピを、クックパッドで情報発信。(小、中計32回)	B	例年同様に、学校給食の献立を積極的に情報発信する。	学校給食課

※フードドライブ：家庭で余っている食べ物を持ち寄り、それらを福祉団体や施設などに寄附する活動のこと。

(2) 食に関する体験と地産地消の推進 施策の方向性：「食の生産に触れる機会を地域や関係者と協力して確保し、交流の輪を広げる。」

事業名	事業内容	29年度実施内容	29年度評価	30年度の実施予定内容	所管課
食育イベント【再掲】	食事展や村山デغدラまつりにおいて、パネル展示等を行い、食への関心を高めます。	食事展にて地場野菜のパネル展示や野菜摂取についての啓発を実施。 野菜の計量 91人参加 野菜を使用した料理の紹介（メニュー配布） 53人	B	引き続き、食事展やデغدラまつりにて地場野菜についての啓発と野菜を使用したメニューの配布を実施。	健康推進課
稲作体験学習（水田学習）	野山北公園の水田を活用し、自然体験・勤労体験学習の一環として、全小学校の5年生による稲作体験を実施します。	全小学校の5年生が、野山北公園にある水田で稲作体験を行うことで、食の生産について理解を深めた。また、生産した米で餅つき大会を開催するなど、保護者・地域と交流を行った。	A	全小学校の5年生が、野山北公園にある水田で稲作体験を行うことで、食の生産について理解を深める。また、生産した米で餅つき大会を開催するなど、保護者・地域と交流を行う。	教育指導課
体験型市民農園	農業経験がない人でも新鮮でおいしい野菜が作れる体験型市民農園を通して、生産者との交流を深めます。	市報等により体験型市民農園の利用者の募集を行うとともに、既存の利用者に継続利用の意思確認を行い、延べ108人の利用者として利用契約を締結。	B	市報等による利用者の募集を行うとともに、新規に体験型市民農園の開設に向けた検討を行う。	産業振興課
喜び農園	園芸を行うことが少ない地域の高齢者が趣味や健康維持の目的で利用できるように、農園を提供します。	日常生活の中で園芸を行う機会の少ない地域の高齢者に対し、農園を提供し園芸を楽しんでいただくことにより、高齢者福祉の向上を図った。（農園数 5箇所277区画）	A	引き続き、日常生活の中で園芸を行う機会の少ない地域の高齢者に対し、農園を提供し園芸を楽しんでいただくことにより、高齢者福祉の向上を図る。（農園数 5箇所277区画）	高齢福祉課
公民館講座	市民講座、家庭教育講座等で料理教室を開催し、学習・交流の機会を提供します。	家庭教育講座として次の2講座を開催した。 「ドキドキクッキング」3回実施、延べ35人参加。 「学んでおいしい日本茶講座」2回実施、延べ15人参加。	B	公民館講座の青少年教室において、子供たちがドングリクッキーを作る講座を実施予定。	文化振興課
学校給食予定献立表の活用	予定献立表を活用し、旬の食材の利用や行事食・郷土食献立の紹介のほか、地場農産物の使用について情報提供します。	旬の食材、年中行事、郷土食、地場産などの紹介及び献立への導入は随時。献立表による地場産の活用状況の実施。（小11回、中11回）	B	旬の食材、年中行事、郷土食、地場産などの情報発信を引き続き実施。	学校給食課
広報紙等による地場農産物販売のPR	直売マップやのぼり旗を作成し、直売所のPRを行うとともに、広報紙やホームページを活用し、情報を発信します。	農産物直売マップを作成し、産業振興課窓口及び市政情報コーナーに設置したほか、市内各地区会館及び各図書館での配布を行った。	B	市報及び市ホームページに地場農産物の直売の記事を掲載。	産業振興課

(3) 食文化の伝承と食を通じたまちづくりの推進 施策の方向性：「市民が様々な活動や場を通して集い、食を囲み、食を楽しむ機会を増やす。」

事業名	事業内容	29年度実施内容	29年度評価	30年度の実施予定内容	所管課
学校給食における行事食・郷土食献立	学校給食で、季節にあわせた行事食・郷土食を提供します。	季節に合わせて献立への導入は随時実施。	B	季節に合わせて行事食・郷土食を提供。	学校給食課
市民文化祭	日頃の芸術文化活動の成果として、食文化についても研究する機会を提供します。	市民文化祭においては、食文化に関する取組はなかったが、生涯学習フェスティバルにて、市民が集い、食を楽しむ機会を設けた。また、土曜日チャレンジ学校にて、料理の講座を実施し、食への関心を高めた。	D	生涯学習フェスティバルや土曜日チャレンジ学校において、食を通して、食文化への関心を高める機会を提供。	文化振興課
公民館講座【再掲】	市民講座、家庭教育講座等で料理教室を開催し、学習・交流の機会を提供します。	家庭教育講座として次の2講座を開催した。 「ドキドキクッキング」3回実施、延べ35人参加。 「学んでおいしい日本茶講座」2回実施、延べ15人参加。	B	公民館講座の青少年教室において、子供たちがドングリクッキーを作る講座を実施予定。	文化振興課

広報紙等によるPR	広報紙等を活用し、食文化に関する情報を発信するなど、食への興味・関心を高めます。	広報紙にて食育に関する記事を掲載。	B	引き続き広報紙等にて情報の発信に努める。	健康推進課
Food（風土）グランプリ	武蔵村山市ならではの食を結集した食の祭典を実施します。	第7回Food（風土）グランプリを平成29年11月11日（土）・12日（日）にイオンモールむさし村山臨時駐車場で開催。 来場者 21,463人	B	第8回Food（風土）グランプリを平成30年11月10日（土）・11日（日）にイオンモールむさし村山臨時駐車場で開催予定。	協働推進課